



《将来に向けた取組方針》

トクヤマグループは、2023年4月に自社の事業活動が生態系に与える影響の把握に努め、生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用に取り組みむことを基本的な考え方とした「トクヤマグループ生物多様性保全方針」を制定し、生物多様性保全に努めるよう働きかけていきます。

・環境負荷物質の低排出状態の維持

現状の低負荷状態を維持するため、部署ごとに管理目標値を決定して活動し、環境への低負荷状態を維持・推進しています。

・特定外来種（例：セアカゴケグモ）の除去を実施

・ブルーカーボン・オフセット制度への参画（沿岸部藻場整備によるCO₂吸収）

「徳山下松港・大島干潟ブルーカーボン・オフセット制度」では、大島干潟の藻場などの保全活動により生まれたCO₂吸収量が「ブルークレジット」として認証され、2022年度は3.8t-CO₂のクレジットを購入しました。本制度を通じて、海洋環境の保全活動を支援することで、豊かで美しい山と海の両面から持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

・周南市木質バイオマス材利用推進会議への参画

木質バイオマス材利活用及び森林整備等に関する協定書に基づき、2022年12月に5団体が共同で周南市の市有林を活用した早生樹の植樹を行いました。早生樹を活用した再造林による持続可能な森林経営モデルの構築を図ることで、森林資源の利活用を促進し、木質バイオマス材の地産地消を目指します。